

景色の箱庭

断片化された景色の点在

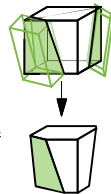


プログラム

今回の敷地である海軍壕公園内にある高台は、琉球王朝時代や第二次世界大戦（沖縄戦）において監視拠点としての役割を担ってきました。

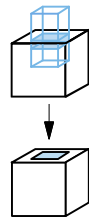
高台からは周囲の街や慶良間諸島の島々などが空や海とつながるような景色となって見え、過去と重なる瞬間がおとずれます。しかしながら今回私たちは、景色のつながりを一度切り分けることで断片化させた景色を点在させました。

ダイアグラム

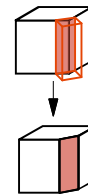


ボリュームにボリュームを重ね、重複面を切り取ることで建築物を造形していく。

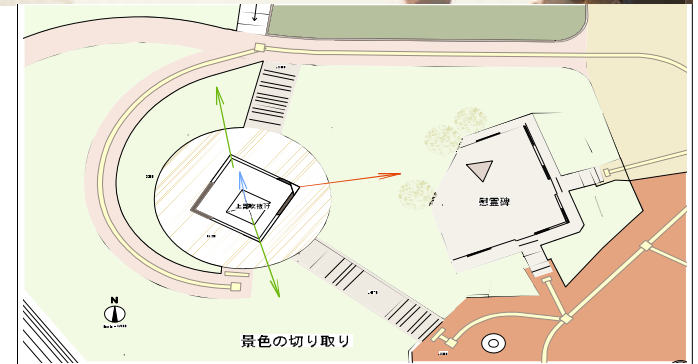
街並みの断片化をするために斜めにボリュームを重ね角を切り取る



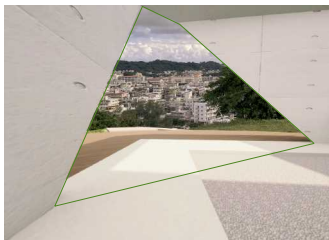
空の断片化をするために上面にボリュームを重ね切り取る。



歴史を断片化するために細長いボリュームを重ねて角を切り取る。



断片化された景色



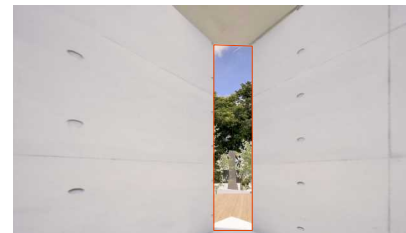
変わり行く「街」

街はその土地で生活する人々にとっては劇的な変化は感じえないだろう。しかし、街の変遷を時間を軸に見るとその当時の人々の確立された生活スタイルにより変化が生じ唯一無二の景色を形成している。変わりゆく景色でありながら、変化に気づきにくいほど当たり前となっている。高台から眺望することにより、細部の変化に気づく。



移ろい行く「空」

空はいつの時代も場所を問わず変化しないものに思えるが、天候・四季・朝・昼・夕と移ろいゆく面を多く持ち同じ表情を見せることはない。また、その移ろいによる恩恵は大きく私達から歩み寄り変化に対応してきたと言えるだろう。



過ぎ去り行く「歴史」

海軍壕は歴史的遺産として過去のものである。それは現在においても変わらず常に過ぎ行くものとなっている。しかし、慰霊碑や壕跡、資料館など祖先の歴史や願いを形として過去を切りとることができる。

構造計画

直方体形状の壁式コンクリート造

本建物は暗渠化した建物形状に切り込みを入れることにより、「内部と外部をフォーカス」したRC造建物である。

その建物の支持地盤はキズ付けず屋根と壁と地面が接続するように計画されている。具体的には、コンクリートとしての一体性を評価し、外壁部の剛性が高い事を利用して屋根スラブ応力を直交する方向(屋根スラブ中心から外周方向)へ流し、その変位と応力を抑えるようにモデル化・断面算定を行う。室内に配置されたRCベンチも構造体として考慮し、外壁胴縁は屋根の長期てきなたわみを抑える効果を期待した設計とする。

